

聖書日課 『からし種』 2024.4.7-4.14

<p>4月7日 (日)</p> <p>詩編 140編</p>	<p>「主よ、さいなむ者からわたしを助け出し／不法の者から救い出してください」(2節)。「蛇のように鋭い舌」や「蝮の毒を含んだ唇」による不当な苦しみを受ける時、私たちは「神の正義」を願い叫ぶ。同じような不当な苦しみを十字架の上で受け尽くされた主は、今日も私たちの「間」で執り成し祈り、私たちを神礼拝に招かれる。今週もこの方に従っていこう。</p>
<p>8日 (月)</p> <p>詩編 141編</p>	<p>「わたしの心が悪に傾くのを許さないでください。悪を行う者らと共にあなたに逆らって／悪事を重ねることのありませんように」(4節)。私たちの心は簡単に悪に傾く。「破滅」に至ると分かりながらも悪事の「蜜」の味に魅せられていく(箴言 5:3 以下)。「誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」(マタイ 6:13)の祈りが、主から与えられていることを感謝して。</p>
<p>9日 (火)</p> <p>詩編 142編</p>	<p>「声をあげ、主に向かって叫び／声をあげ、主に向かって憐れみを求めよう。御前にわたしの悩みを注ぎ出し／御前に苦しみを訴えよう」(2-3節)。ダビデが洞穴で歌ったと言われる詩編。私たちは神の前で、声をあげ、叫び、悩みを注ぎだし、苦しみを訴えることがゆるされている。言葉にならない呻きさえも受け止めて今日を「共に」歩んでくださる主に感謝して。</p>
<p>10日 (水)</p> <p>詩編 143編</p>	<p>「あなたに向かって両手を広げ／渇いた大地のようなわたしの魂を／あなたに向けます」(6節)、「朝にはどうか聞かせてください／あなたの慈しみについて」(8節)。わたしは自らが心の奥底に抱える「渇き」をどれだけ知っているだろうか。主は私たちが祈り始めるのを待っておられる。「あなたの慈しみを聞かせてください」という祈りと共に一日を始める者とされて。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.4.7-4.14

<p>11日 (木)</p> <p>詩編 144編</p>	<p>「人の子とは何ものなのでしょう／あなたが思いやってくださいとは。人間は息にも似たもの／彼の日々は消え去る影」(3-4節)。「人生は短く、苦しみは絶えず、花のようにしおれる」とヨブは嘆いた(ヨブ 14 章)。しかし、主イエスは一輪の野の花に注がれる神の慈しみを教えてくださった(マタイ 6 章)。今日、私に命の息を吹き込んでくださる神の愛に感謝して。</p>
<p>12日 (金)</p> <p>詩編 145編</p>	<p>「人々が深い御恵みを語り継いで記念とし／救いの御業を喜び歌いますように」(7節)、「主は倒れようとする人をひとりひとり支え／うずくまっている人を起こしてくださいます」(14節)。今日この世界で、主の慈しみのまなざしが誰に注がれているのかを想う時、「人々が救いの御業を喜び歌うことができるように」と、教会に託されている責任の重さを覚える。</p>
<p>13日 (土)</p> <p>詩編 146編</p>	<p>「君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない」(3節)、「とこしえにまことを守られる主は／虐げられている人のために裁きをし／飢えている人にパンをお与えになる」(6-7節)。現代の君侯たちの高ぶりと暴虐を止められない私たち。「わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ 16:33)と宣言された十字架の主の力強い声を聴く信仰をいただいきたい。</p>
<p>14日 (日)</p> <p>詩編 147編</p>	<p>「打ち砕かれた心の人々を癒し／その傷を包んでくださる」(3節)。これはバビロン捕囚から戻って来たイスラエルの人々がエルサレム神殿の再建に取りかかった頃の歌。バビロンでの捕囚生活はかなり苦しい毎日であっただろう。そのような状態から神の慈しみにより帰還できた喜びの歌である。どんな時にも共にいてくださる主に感謝したい。</p>